



## 鳥羽市地域課題解決調査研究事業 調査研究成果書

# 島プロジェクトin鳥羽 夏渡島

実施期間：2025年9月1日 - 9月7日

横浜国立大学 島プロジェクトin鳥羽

作成日：2025年9月19日

## 目次

1. 調査研究の実施概要 p.3
2. 研究背景 p.4
3. 研究目的 p.6
4. 研究計画 p.7
5. 研究成果 p.8
6. 課題解決の提言 p.17

# 1. 調査研究の実施概要

実施団体名	島プロジェクトin鳥羽
調査研究名	島プロジェクトin鳥羽夏渡島
実施期間	2025年9月1日から7日まで
研究対象地域	三重県鳥羽市答志町和具地区 ・三重県鳥羽市菅島町
のべ参加人数	11名

調査研究により解決に取り組んだ課題
A)空き家の維持に関する課題
B)人手不足
C)地域住民と大学生の交流に関する課題
D)屋外の交流場所に関する課題
E)学生の滞在・交流拠点に関する課題
F)島の景観、にぎわいに関する課題

活動内容
①ウッドデッキ制作（屋根の試作）
②空き家の片付け
③アート制作
④滞在拠点（元空き家）片づけ、実測、図面制作
⑤地域住民の手伝い（海の家撤去作業）
⑥台風への備え
⑦教育イベント
⑧活動報告会・交流会

## 2. 研究背景

### (1) 鳥羽市における地域課題

三重県鳥羽市においては、豊富な自然、歴史、文化資源があるが、1995年以降、急速に人口減少や少子高齢化が進み、とくに離島地域においてはこれが著しくなっている。これに伴って、地域社会の担い手不足、また観光客の減少傾向が続く。基幹産業である水産業も、就業者の高齢化などにより、人手不足が顕著となっている。またこの地域ならではの建て詰まった老朽木造住宅の空き家が増加しており、活力の低下やその危険性が指摘される。

### (2) 島プロジェクトin鳥羽について

活動対象フィールド：三重県鳥羽市離島地域

所属メンバー：横浜国立大学 学部生35名 院生2名 計37名

活動開始時期：2022年度

答志島での滞在拠点：山文寝屋子（三重県鳥羽市答志町854）

内容：三重県鳥羽市離島地域と大学生が連携した地域課題解決

プロジェクト	空き家 空き家問題解決の第一歩に	観光 非日常な日常の経験
学生拠点 島における活動拠点をつくる	ゲストハウス＆合宿 横のつながりをつくる	ウッドデッキ 島の屋外の交流拠点を作る
教育 島の子どもたちにワクワクを	アート 楽しみをつくる	魅力発信 横浜でできる答志島への貢献
紡ぐ 島の一員になりたい	マップ 島のマップを作り、理解する	辞典 島の特徴を記録、継承する

（↑ 具体的な活動内容）

## 2. 研究背景

### (3) 調査研究により解決に取り組んだ課題

#### A) 空き家の維持に関する課題

鳥羽市離島地域では、空き家の増加とその維持管理、また活用に関して、とくにその手始めともなる「片づけ」が進まないといった課題があった。これに対し、大学生がそのお手伝いをしたり、活用に向けて整備を進めたりすることで、放置による様々なリスクを抑える。

#### B) 人手不足

地域には力や人手の必要な作業もある中で、人手不足により作業実施に厳しい状況がある。これに対し、大学生がそれをお手伝いすることで、単なる貢献だけでなく交流や関係性を深めるための重要な機会となる。

#### C) 地域住民と大学生の交流に関する課題

本団体では、年間を通して地域課題解決のために活動しているものの実際に地域の人々と交流できる機会は限られている。そのため、地域を訪れている際に、積極的に交流の機会を持つことで、その先の継続的な関係性の構築に努める。

#### D) 屋外の交流場所に関する課題

地域のひらかれた交流場所として「ねやこや」が挙げられるが、利用者が限定的になりつつあるとの声もある。屋外の交流場所を設置することで、流動的かつ幅広い人々の交流機会を生み出すだけでなく、その制作段階においても人々のつながりを生み出す。

## 2. 研究背景

### (3) 調査研究により解決に取り組んだ課題

#### E) 学生の滞在・交流拠点に関する課題

活動を行うために大学生が地域に滞在する際、年々、本団体の所属人数が増加していることもあり、現在の滞在拠点が手狭になりつつある。また、地域に貢献したい学生の間での交流やつながりを広げていくためにも、さらなる地域の滞在・交流拠点は必要である。そのため、空き家活用の一環として、大学生が片付けから整備、利用、管理まで行うことで、その十分な空間を確保しつつ、空き家問題に関連し、滞在すること自体が地域にとって少しでも役に立つものとする。

#### F) 島の景観、にぎわいに関する課題

鳥羽市離島地域には、その豊かな自然と人々の営みが感じられる魅力的な景色がある。これを踏まえ、大学生が滞在や交流を通して捉えた景色や地域の魅力を際立てるような活動を行い、地域の付加価値を高めたりにぎわいを創出したりすることだけでなく、その後の地域の人々と大学生のつながりや交流に貢献する。

## 3. 研究目的

本活動は、鳥羽市離島地域の地域課題に対して、大学生が現地での実践的な取り組みを行うことにより、地域課題を把握し、課題解決の一端を担うとともに、地域住民への貢献のあり方や意義を探究することを目的とする。

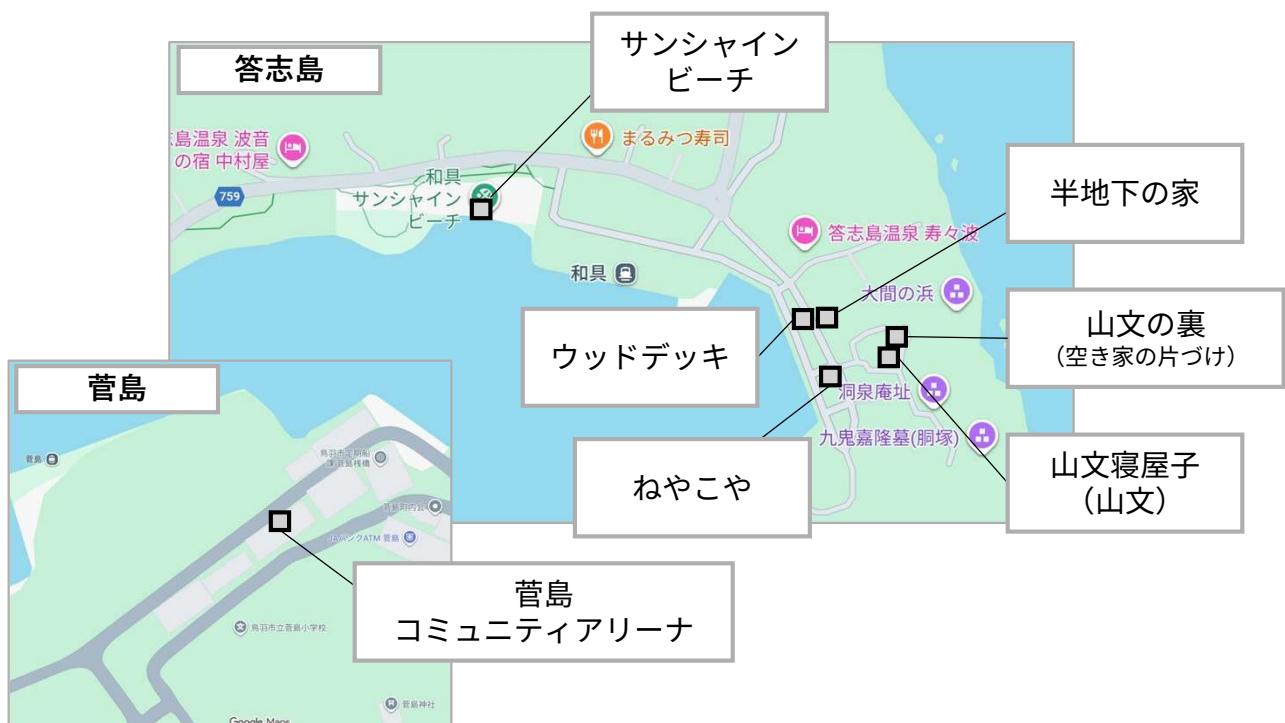
## 4. 研究計画

### 2025 夏渡島 スケジュール

月	日	やること	場所
9	2	空き家の片づけ	山文の裏
		リサイクルゴミ出し	
		空き家壁面アート準備	山文・ねやこや
	3	海の家片付け手伝い	サンシャインビーチ
		ウッドデッキ屋根づくり	ウッドデッキ
		空き家壁面アート	半地下の家
	4	プレゼン	ねやこや
	5	山文の片づけ	山文
	6	教育イベント準備	菅島
	7	教育イベント	菅島

- 一日のふりかえりを入力するフォームを作成し、参加メンバーが成果や感想、翌日の目標を記録する。

### 活動場所について



## 5. 研究成果

### ①ウッドデッキ制作（屋根の試作）

課題：C・D・F

- 制作：9/3
- 参加人数：5名程度
- これまで制作を続けてきたウッドデッキに、屋根を試作した。木材で骨組みを作り、すだれやUVカットシートを屋根として試した。すだれが風に強く、見ばえも良かつた。



## 5. 研究成果

### ②空き家の片づけ

課題：A・B・E

- 実施日：9/2-6
- 場所：山文の裏の家
- のべ参加人数：10人程度
- 使用したもの：ごみ袋（サイズまじりで30枚くらい）、軍手、マスク、ひも（本を束ねる）、はさみ、ほうき、掃除機、スマホ（着物の記録）
- 7月上旬に相談、9/1に挨拶、9/5に確認

（↓片付け前の様子）



## 5. 研究成果

### ②空き家の片づけ

#### 作業内容

- 2階の方が荷物が少ない、布団と本が多い状況であったため、布団を押し入れに、本をまとめた。家具を端に寄せ、スペースを作った。
- 1階について、本は2階へ、服が多かったのでまとめた。収納スペースが多かったので、写真とビデオテープを除き、ごみは捨てた（資料として活用できる可能性があるため）。また、着物や高価そうなものはとっておいた。服も新品そうで活用できるものを残し、9割以上は処分した。取っておいたものや家具を一つの部屋にまとめて広いスペースを作った。
- 燃えるごみは可能な限りごみの日に出したが、燃えないゴミ、粗大ごみはまだ出せておらず、次回渡島で処分予定。
- 今回は2階のほとんどと、1階の広いスペースの片づけを行った。しかし、1階には細かな収納や部屋があるため、まだ完全ではないものの滞在空間は作ることができた。
- 屋内作業なので、雨の日でも進めることができた。ある程度片付いてはいたので1日目にもある程度の目途をつけることができた。
- 電気が通っており、2階はエアコンがつく。



# 5. 研究成果

## ③アート制作

### 課題：C・D・F

- 制作時間：9/3 10:00-18:00
- 参加人数：9人くらい
- 前日に数名でデザイン案作成、島の方々へ伺って決定
  - 人や車通りの多い道に面しており、その前に設置されたベンチには高齢の方々がいつも座っていたため、その様子が活かされるデザインとなるよう工夫した。地域の方からは、サメに飲み込まれる腕や脚も書いてはどうかとの提案もあり、ご好評をいただいている。



## 5. 研究成果

### ④滞在拠点（元空き家）片づけ、実測、図面制作

課題：A・B・E

#### 片づけ

- 南面六畳、3人分くらいの寝れるスペース
- エアコンが故障中：ストーブはあるので現状冬場なら使える
- 元住民の持ち物が残っていた玄関、収納を整理

↓片付け前



↓片付け後



↓玄関



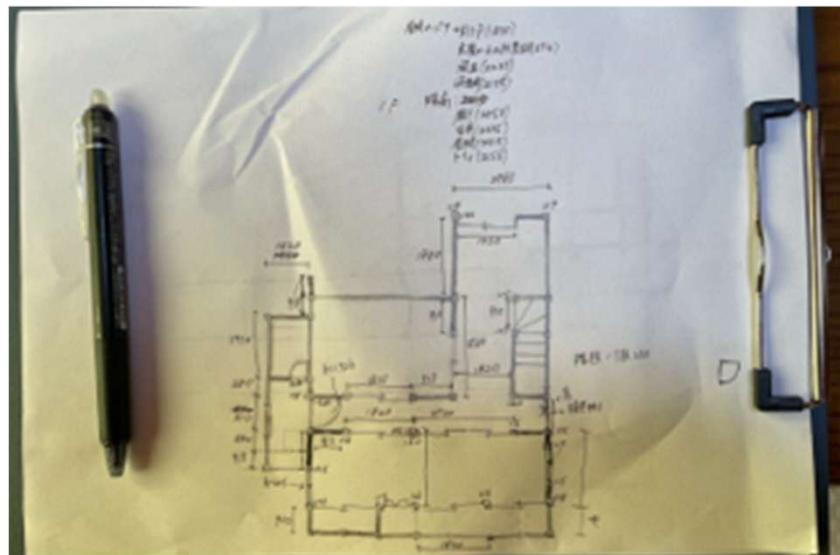
## 5. 研究成果

### ④滞在拠点（元空き家）片づけ、実測、図面制作

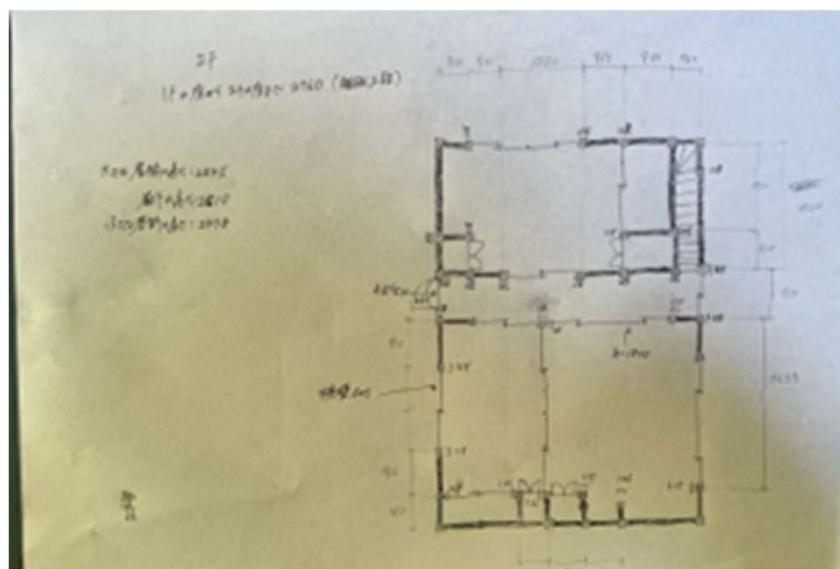
#### 実測、図面制作

- ・ 秋学期の横浜での活動中にゲストハウスとしての改修計画を立てるため、山文全体を実測
- ・ 簡易図面を制作

↓ 1階の図面



↓ 2階の図面



## 5. 研究成果

### ⑤地域住民の手伝い（海の家撤去作業）

課題：B・C

- 実施日：9/3 10:00-昼まで
- 場所：和具サンシャインビーチ、海の家
- 参加人数：7人程度



### ⑥台風への備え

課題：E

- 9/4-5で台風による影響の予報があったため、ねやこやでの対策を教えていただき、山文では対策をした。



# 5. 研究成果

## ⑦教育イベント

課題：C (+地域の方々のニーズに応える・学びの実践)

- ・ 日時：9/7 9:00-12:00 集合8:30
- ・ 場所：菅島コミュニティアリーナ1階、2階
- ・ 参加人数：子ども6年3人、5年4人、4年4人、3年4人、2年2人、1年4人、年長1人、年中2人 合計24 保護者10名程度 島プロ8人
- ・ プログラム
  - ・ 折り紙を折るゲーム
  - ・ お題に沿って写真を撮るゲーム
  - ・ 陣取りゲーム

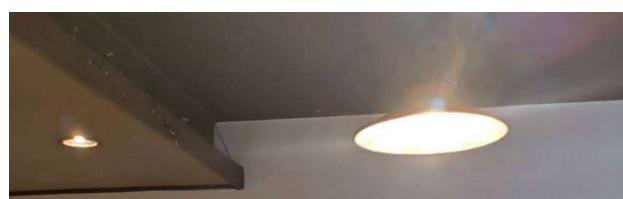
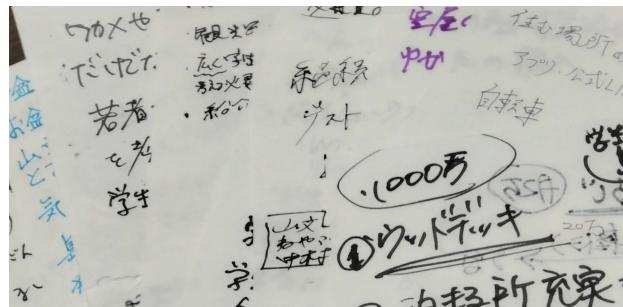


## 5. 研究成果

### ⑧活動報告会・交流会

#### 課題：C

- 日時：9/6 16:00-17:40
- 場所：ねやこや
- 参加人数：地域の方11名 島プロ7人
- 目的
  - 新入生を中心に、島の方と一対一で話す機会を設け、しっかりと話すことで名前を覚えていただくなど個人間での関係性の構築
  - プレゼンを踏まえ、今後の島プロに関する島の方々のアイデアや反応、島プロに期待することを伺う



## 6. 課題解決の提言

本活動においては、先に挙げたA～Fの課題の解決に対して実践的に取り組んだ。またこれに加えて、活動によって明確となった状況・課題は以下のとおりである。

- a) 学生の滞在期間が限定的である。
- b) 他の大学や団体の学生との連携、交流がスムーズでない。
- c) 地域における医療体制が整っていない。

以上に挙げたA～F、またa～cの課題、さらに地域の方々からのご提案やご意見を踏まえ、鳥羽市の離島地域を対象に以下の3点を提言する。

### ア) 学生の滞在について

地域研究や地域課題解決活動のために鳥羽市を訪れる学生の滞在に対して、空き家の活用に結びつける。また、その片付け・整備・管理をさらに促進するための制度や仕組みが必要である。とくに、空き家の情報についてや経済面においてはサポートがあることで、より円滑に片付けから活用までの取組みが行われる。

また、学生が滞在期間に地域の方々とも交流やつながりを生み、持続的な関係性を構築することで、地域の深い魅力に気づくとともに、地域課題に対してより適切かつ本質的に関わったり、スムーズに活動したりすることができる。また、にぎわいや関係人口の創出にもつながる。

### イ) 学生間の連携強化・ネットワークの構築

大学、滞在時期、専門分野は違うものの、鳥羽市への地域貢献という目的が共通している学生間での連携を強化することで、既存の活動の充実や継続、また新たな取り組みが行われることに加え、関係人口の創出・拡大にも期待できる。さらにこれを、例えば医療等に関わる分野の学生に対する実習・研究につなげることで地域医療の充実化への可能性も見込める。

## 6. 課題解決の提言

### ウ) 学生を介した魅力発信

鳥羽市で活動する大学生が、普段暮らしている地域や大学のある地域においても鳥羽市の魅力を発信することで、市外、県外、全国へ効果的な広報活動が行える。その際、行政などと連携し、多様な手段や機会を活用して、幅広く、また新たな形での魅力発信活動を行う仕組みを整備する。これにより、学生と地域の継続的な関係性の構築につながるだけでなく、学生が島外、市外から来ていることを活用することができる。

以上を踏まえ、団体として今後も地域課題解決活動への取り組みを継続する。